

祝 当協会 名誉会長 林崎 光弘 氏【函館市功労賞】を受賞

道南ブロック - 小野寺 英

道南ブロックの会長で当協会の名誉会長であります林崎光弘氏が昨年7月に、多年にわたり認知症介護の推進に尽力され函館市の社会福祉の向上に貢献されたとして函館市功労賞を受賞しました。令和2年には北海道の民間社会福祉事業の発展と社会福祉の増進に貢献したとして北海道社会貢献賞を受賞したこともあり両受賞とも当協会での活動が評価されたものであり、皆様からのご理解とご支援を頂いた賜物であるとお話されており、この場をお借りしましてお礼をさせていただきます。ここからが本題となりまして、この函館市功労賞の受賞を記念して林崎

名誉会長と言わずと知れた認知症介護研究・研修仙台センターの研修部長であります矢吹知之先生とのスペシャル対談が行われ、この模様が函館市のホームページ内で公開されることが決まりました。矢吹先生との対談は認知症介護の過去、革新、そしてこれからを担う皆様へのエールという三つの構成で繰り広げられていきます。齢八十超えでのYouTubeデビューはスーパーアナログ人間として百戦錬磨の林崎名誉会長もいささか緊張が隠せない模様です。矢吹先生も、とても面倒なことに巻き込まれたと内心思っているのではないかと巻き込んだ私たちは心配してい

るところです。果たしてどんな対談になるのか。お二人ならではの視点で認知症にまつわるテーマを語る今回の企画。我々が名誉会長は台本があってもスルーしがちなので、YouTubeという土俵の上で、異次元の収録対策で臨まなければなりません。これを機にYouTuberとして活動の域を広げにかかるとなることがあるかもしれませんが、ご覧になった方からのコメントで炎上しないことだけを心から祈っています。この会報が皆様のお手元に届く頃には函館市のホームページ上で公開されているものと思います。ご興味がございます方は是非ご覧になって下さい。



編集後記

先日、ラジオをつけながら仕事をしていたら、パーソナリティの辛坊治郎さんがその番組の中で大変興味のある内容が話されていた。その内容は、この度、製薬大手エーザイがアメリカのバイオジェンと開発した認知症アルツハイマー病新薬「レカネマブ」の製造販売承認を厚生労働省に申請しました。この開発自体は大変喜ばしい事ではあるが「現行の健康保険制度を圧迫する恐れがある」と話されていた。これを読んでいる皆さんはもうご存じのように、認知症のアルツハイマー病は、脳内に蓄積されたタンパク質「アミロイドβ」が脳内の神経細胞を圧迫して進行します。新薬「レカネマブ」は既にアメリカでは承認され、アメリカでの標準的価格は年2万6500ドル、円換算すると年約340万円となります。体重に応じた量を点滴で投与するものです。しかし惜しいことにこれを使用

してもアミロイドβの蓄積を止められるわけでも、認知症が治るわけでもありません。1年半後の進行悪化を27%抑えられるというものです。これはどういうことかと言うと、例えば1年半の間、何もしなければ100%進行するところを「レカネマブ」を投与すると進行が73%くらいに留まるというものです。微妙なところではありますが、高齢者本人やご家族様は、現実的にはアルツハイマー病と診断されれば、何としてでも進行を抑えたいはずで、現在アルツハイマー病の高齢者は100万人単位で存在します。その人たちに年間340万円かかる新薬を健康保険で賄うとなれば、その財政的な負担はこれまでの薬とは次元が異なることが想像できます。新薬「レカネマブ」を開発したエーザイは、この薬が高額であることについて、症状の進行を遅

せることにより、薬以外でもかかる費用などが軽減できると主張しています。しかし費用対効果だけで話を進めて良いものなのでしょうか。日本は現在この新薬に限らず、様々な新薬が開発され始めています。患者や家族は健康保険を適用してほしいと思うでしょうがその全てを承認すると我が国の健康保険制度をこのまま維持できるかという問題が出てきます。新薬「レカネマブ」は年内には国内認証されるでしょうが、このニュースは今後の健康保険適用の可否をめぐる、皆が悩み考え議論しなければならないものではないでしょうか。言われてみれば確かにそうかなと、思わなくもない問題であります。皆さんはこのニュースを聞き、いかに思われるでしょうか？

引用：「辛坊治郎ズームそこまで言うか」より
事業委員会 担当 副会長 平山 洋一

No: 22



一般社団法人 北海道認知症グループホーム協会
広報誌【大空と希望】2023年3月発行
〒060-0002
札幌市中央区北2条西7丁目1番地 かでる2・7 4階
TEL: 011-208-3320 / FAX: 011-204-7312
URL: <http://h-gh.net>

大空と希望

『自分を守ることが、大切な人を守ることに繋がる』

一般社団法人 北海道認知症グループホーム協会 会長 宮崎 直人

昨年の12月、自社の運営するグループホームにて、コロナ陽性者が発生しました。当時私は、病気療養中でしたので、職員の方々にその対応をお願いするしかなく、直接の陣頭指揮をとることができませんでした。その後、現場は疲弊し、相当な疲労が溜まっていきました。その結果、複数の職員の方が退職しました。コロナ対応の疲労が退職の直接的な原因と思われます。皆様の事業所におかれましても、同様の状態を経験されたところもありかと存じますが、コロナに対して、如何に備え、如何に対応をし、如何に終息を迎えたとしても、何らかの形でストレスが影響し、中には事業所を閉鎖しなければいけない事態に追い込まれた所もあると聞きました。つまり、感染症予防も含めた対応を踏まえて、備えが充分で、人の確保ができていたとしても、その心理的な悪影響は、はかり知れないものがあると思います。現に私の所では、沢山の課題や問題を残し、現在も継続して向き合っています。その時の事業所の中では、さまざまな不足を感じ、疑問を抱きながらも、自問自答の日々であったと思いま

す。私自身がそうでしたが、病気で何もできない不甲斐なさと、憤りと、虚無感が襲い、どん底を経験しました。しかし、それでも、今こうして入居者の方々と生活を共にできていると言うことは、沢山の方々の支援があったからこそです。時に「どうにかなる、なんとかかなる」と言いますが、その陰では「どうかにかしている人達がいて、なんとかしてくれる人達がいてくれる」からどうにかなっているし、なんとかなっていると思います。これは、決して当たり前のことではなく、感謝以外の何ものでもありませんし、頭が下がる想いです。そのことに感謝して、この局面を乗り越えられたらいいと思います。今後、コロナに関しては、分類が変更になると聞いておりますが、これからも感染症対策を怠ることなく、「自分の身は自分で守る、自分を守ることが大切なひとを守ることに繋がる」と繋げると、今回の件であらためて学びました。是非、皆さんの事業所におかれましても、感染症対策の徹底をより習慣化し、いざという時のための備えを充実していただきますようお願い申し上げます。



コロナ禍のグループホームのケア

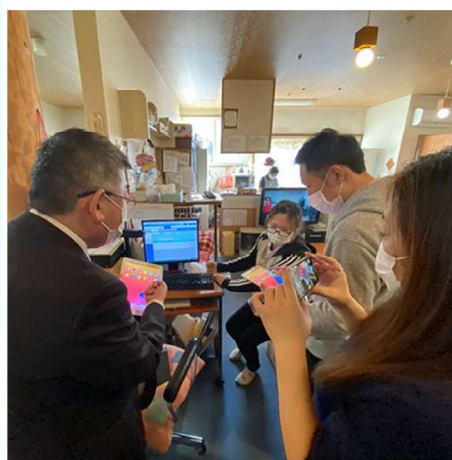
空知ブロック - 加藤 圭太郎

謹んで新春をお祝い申し上げます。

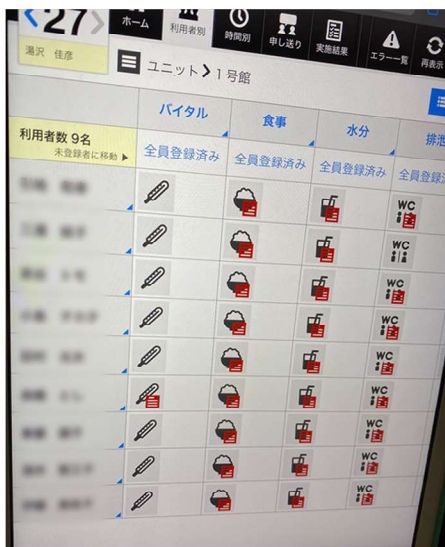
2019年の終わりからコロナ禍が始まり早4年が経ちました。コロナ禍では感染症対策を始め、コロナが発症してしまった場合の隔離措置、面会制限など様々な制約がまだ続いているかと思っています。

2023年5月頃から新型コロナウイルスも5類に分類されると報道がありましたのでようやく、落ち着きを取り戻し、本来の姿に戻っていくのではないかと思います。

さて、コロナ禍でのグループホームのケアということでテーマをいただき今回広報の記事を書かせていただくことになりましたが、コロナが始まった直後より弊社では業務の改善を考え始めました。その中で介護事業所生産性向上推進モデル事業の募集が行われており、申請したところ対象事業所となりましたので、業務課題の抽出やその解決に向けたプロセスを整理すると共に、ICTなどのテクノロジー活用等による業務改善に着手することになりました。



業務改善ではスタッフにアンケート調査を行い課題の抽出を行うと、大きく3つの課題が浮き彫りになり、1つ目は整理整頓などの5S問題、2つ目は記録の問題、3つ目は研修の問題があげられました。整理整頓



に関しては管理する場所を決め、ファイルの種類、ラベルの統一、服薬箱の簡素化等を行うことにより管理をしやすくすることで業務効率を上げることが出来ました。またICTでは介護ソフト、眠りスキャン等を導入することにより、介護負担や記録時間の削減をすることができ、また家族とのコミュニケーションについても希望の方にはラインでのやり取りやQRコード付きのはがき等を送付し、動画が見れる環境を作り、面会が制限されている中、関係が希薄にならない取り組みを同時に行うことが出来ました。



研修についてはマニュアルを紙ベースから動画、Eラーニングを作成することによりどこにいてもスマホでマニュアルを学習できる環境を構築することが出来たため、マニュアル

理解度の進捗状況も管理することが出来るようになり、コロナ禍で集合研修が出来ない中効率を高めることが出来ました。最近ではzoomで社内研修を行うことがほとんどになり、研修に参加できないスタッフも録画したものを後から見返すなどし、全員が研修に参加できるよう工夫を行っている。こういった取り組みにより、効率化した時間を入居者様に還元する環境を作ることが出来てきました。



まだまだ改善できることもある為、今後も効率化を進め、入居者様のケアの時間を増やすことにより、手厚い認知症ケアを推進していければと考えております。事業所様の個々の状況により様々な取り組みがあるかと思いますが参考になれば幸いです。新型コロナウイルス感染症は今年5類に変更される見通しですが、今後も新たな問題が発生した際、プラスに転換できるよう精進したいと思います。今回広報の記事を書く機会をいただきありがとうございます。

外国人材を受け入れて～グループホーム花縁の人材育成～

日胆ブロック - 大澤 薫

1.《外国人材採用のきっかけ》

当法人は苫小牧市の西地域でグループホーム2か所、小規模多機能居宅介護事業所を1か所、住宅型有料老人ホームを1か所運営しており、約65名の利用者様の生活の支援を約55名前後の職員で行っている。

数年前から人材不足は深刻で、当事業所でも人員基準ぎりぎりの状態が続きスタッフの疲弊と共に本来の適切なサービス提供もできなくなるといった状態が生まれていた。そこで、花縁では職員の定着が安定するように福利厚生の上や人材育成の見直しを図ると共に外国人材に着手しようと考え、2020年厚生労働省の「地域外国人受け入れ定着モデル事業」のセミナーを受講する機会があり申し込んだ。これは、人材不足の深刻化する地方中小企業に在留資格「特定技能」を持つ外国人材をマッチングし、行政、事業者、地域コミュニティ等が連携しながら職場と地域に定着できるよう支援する取組で、委託された企業が外国人材募集、育成、採用、企業とのマッチング、採用後の定着までサポートしてくれるものであった。

2.《採用方法》

申込から採用までの間に世の中はコロナ禍となったため、説明会、研修等に加え当事者との面接も全てZoomで行った。実際に受け入れる現場は年齢層も若く男性の主任を中心にチーム作りに取り組み始めたグループホームのユニットとした。主任は「受け入れることできっとチーム力が向上すると思うのでやってみたい」と前向きに捉えてくれた。ネパールの方と面接を行い印象の良かった方にお声をかけ、当人も花縁を選んでくださり採用を決定した。その後は定期的にZoomによる面談を行いお互いの理解を深めていった。



3.《実際に採用してみて》

実際に現場に入ってから、特段苦慮する場面はなく面接での印象通り笑顔も多く明るく素直で、日本語も介護学校で行っている日本語講座を受講しながら上達していった。私生活でもスタッフが一緒に買い物に行くなど彼女が寂しさを感じずに、居心地よく働けるように関わっていた。仕事内容についても一度指導したらすぐに実践できることも沢山あり身体介助の習得も目覚ましく、5カ月目には夜勤の独り立ちができるようになった。しかし何より彼女の素直で人柄がよいところを伸ばしながら萎縮せずに生き活きと働いてもらうことを第一に考えている。



4.《採用してみて変化したところ》

今回外国人受け入れをしてみて感じたこととして、「人を採用して育てる」ということを組織がどのように捉え、それを現場がどのように実践していくかが重要になってくると考える。花縁では「働きやすい職場づくり」に焦点をあて取り組んでおり、これは外国人でも日本人でもやることは同じではないかと考える。一人ひとりの特徴や個性を捉えた人材育成は少なからず職員の定着に繋がっていると考えられ、このような取り組みがあったからこそ、今回の外国人採用がスムーズにできたのではないかと思います。



輝く未来へ 道南ブロック - 村田 葉子

何かと我慢したり、生きづらいという環境が続いたこの約3年間。様々な情報が目に入り、聞こえ、何を信じて良いのか戸惑いを感じた方も多かったのではないのでしょうか？そのような時期も少しずつですが、世界の対応が変わり、日本の環境にも明るい兆しが差し込んで参りました。グループホームだけではなく、医療関係、福祉施設等においては、やりたくても行動に移すことが出来なかった事が沢山ではないのでしょうか。海外においては“流行り風邪”と認識されている中、日本は中々その様な思考に至るまで長い時間を要した様に思います。

情報過多なこの時代。

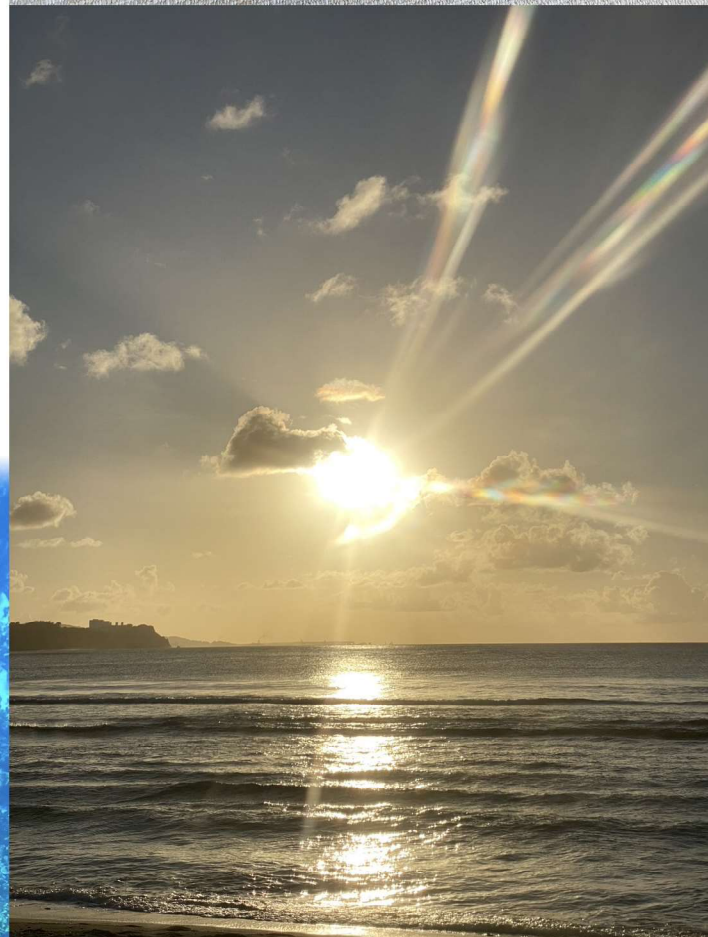
何を信じていけば良いのか。

答えは一つ。

自分の信じた道を歩むこと。

環境だけではなく、人間の思考にさえ影響を及ぼしたね。私はこの時期を悪い時期だった…とは思いません。この時期を通して、今後の生き方を一人ひとりが考えて行く良い機会であったのではないかと考えております。今後グループホームにおいても、今まで出来なかった事、我慢して来た事をこれから明るい未来にするのも、そうでなくするの、各事業所様の代表・管理者・スタッフの思考と行動で大きく分かれて行くと思います。ご自分が残りの人生をどのようにして過ごすかと考えた時、皆様はどのような選択をいたしますか？入居者様ご自身やそのご家族様が選択する事もございますが、根底にあるのは各事業所様であります。ホームに入居されている皆様、一生懸命勤務されておられるスタッフ様、そして事業所全体が輝く未来を過ごせる様に考えるととても重要な時期に入りましたね。

この世界が愛と希望で満ち溢れます様に…



2023年度（令和5年度） 研修日程 及び 開催地域 ※予定

認知症介護実践研修（実践者研修）

- 第1回【十勝】
2023年 5月11日～ 6月21日
- 第2回【日胆】
2023年 6月27日～ 8月 8日
- 第3回【札幌】
2023年 10月24日～ 12月 7日

認知症対応型サービス事業管理者研修

- 第1回【十勝】
2023年 6月21日～ 6月22日
- 第2回【日胆】
2023年 8月 8日～ 8月 9日
- 第3回【札幌】
2023年 12月 7日～ 12月 8日

認知症介護実践研修（実践リーダー研修）

- 第1回【十勝】
2023年 7月～8月を予定
- 第2回【札幌】
2023年 9月11日～ 10月17日

当会主催 - 企画研修 -

- 「高齢者の権利擁護」研修【札幌】
2023年 11月28日

※日程等変更になる場合がございます。詳しくはホームページ等をご覧ください。

URL <http://h-gh.net>

2023年度 助成事業

- 事業委員会担当 -

ブロック	時期	開催地	事業名	講師等（敬称略）
空知	2023年9月29日	滝川市	認知症介護の基本研修	大辻 誠司 加藤 圭太郎 湯澤 佳彦
道南	2023年12月1日	函館市	身体拘束適正化・高齢者虐待防止研修会	加藤 和也
日胆	2023年10月13日	新ひだか町	実践事例研修会	大澤 薫
	2023年11月17日	苫小牧市	口腔ケア研修会	松本 誠
道東	2023年7月下旬	釧路市	認知症ケア研修	未定
道北	2023年10月下旬	旭川市	認知症ケア これまで・今・これから	未定
オホーツク	2023年度	未定	野中式事例検討会	大澤 薫
	2023年度	未定	高齢者の虐待防止	未定